

各団体活動状況

第四十七回定期演奏会を終えて

ウィンドミル・オーケストラ
杉目 雅範

私たちはウィンドミルオーケストラは、佐治薫子先生の指導を受けた船橋市前原小学校卒業生の有志が集まり、田久保裕一先生を初代団長として昭和四十九年に発足し、昭和五〇年の第一回定期演奏会を開催して以来、毎年夏に定期演奏会を開催しています。

昨年、第四十六回となる定期演奏会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により、やむなく中止いたしました。

本年も、依然として厳しい状況が続く、練習もままならない環境ではありましたが、当団の名譽指揮者である現田茂夫先生をお迎えして、八月八日(日)に習志野文化ホールで第四十七回を開催することができました。

開催に当たっては、ホール定員の半数となるよう、お客様を関係者の方々に限定するとともに、入場時には検温・消毒、マスク着用などの感染症対策にご協力いただきました。また、管楽器奏者を除き、舞台上でもマスクを着用しました。



スクを着用しました。曲目は、昨年の定期演奏会で演奏予定だったドボルザーク作曲の交響曲第九番「新世界より」に加え、新たに練習した二曲を演奏し、二年ぶりに慣れ親しんだ習志野文化ホールでお客様からたくさん拍手をいただき、忘れがたい演奏会となりました。

依然として厳しい状況が続くことが予想されますが、事態が収束した折には、今回参加が叶わなかった団員も含め、お客様の期待に応えられるよう練習を重ね、より多くの方々に演奏を楽しんでいただけるよう取り組んで参ります。

第三十二回定期演奏会

習志野ウィンドオーケストラ
友常 正志

習志野ウィンド・オーケストラは、千葉県習志野市で活動している、市民吹奏楽団です。高校を卒業してからも楽器を続けたいという仲間が集まり、「地域に根ざした音楽活動」を目標に、昭和六〇年に発足しました。主な活動としては、定期演奏会(毎年四月開催)、吹奏楽コンクール、市民文化祭、地域の演奏会への出演等を行っています。

本年も四月二十五日(日)に習志野文化ホールで定期演奏会を開催させていただきました。昨年より、新型コロナウイルスにより、吹奏楽をはじめとする音楽関係のイベントは多くが中止となつている状況で、当団も昨年の定期演奏会を中止せざるを得ない状況となり、またその後のコンクールなどをはじめとする本番も中止となりました。

特に昨年四月から五月にかけての千葉県の緊急事態宣言時には、練習場所の確保ができず活動自体も休止することとなりました。

幸いにも六月より活動を再開することができましたが、団員の中には、職場や家族の都合で活動に参加できない者も多くお

いるところでした。特定の指導者は無く、誰もが日頃から歌作りで悩んでいることや思いを自由に出し合い忌憚なく言い合える環境です。



第九十七回定期演奏会

習志野フィルハーモニー
管弦楽団
山口 憲次

習志野市芸術文化協会様の支援の下、七月四日に第九十七回定期演奏会を無事行うことが出来ました。コロナ禍での開催でしたので準備は大変でした。

習志野文化ホールには感染防止のために幾つかの要望事項が出ていました。来客数は定員の五〇%以内、市松状の指定席、使わない席は塞ぐ、さらに、もしも来場者の中から感染者が出た場合、その方の座つた座席番号、そして連絡先と氏名が分かるようにしておくことでした。

そこで、マスク着用や密を避ける等の注意事項の徹底をどのように図るか、チケットの販売方法はどうか、入場時の体温測定方法やプログラムを受け取ってもらう方法等細々とした点まで話し合つて方法と誰が担当するかを決めました。また、楽屋についても定員が決められていて全員が同時に使えないため、モリシアホールも楽屋として使いました。前日は団員全員でステージの配置(隣の距離をメジャーで測りながら)と使用しない座席に貼り紙をする作業をしました。終演後も全員で片付け作業をしました。

何より、お客様を迎えるの演奏会を実施できたことは団員全



員の喜びでした。この日に向けて、どの練習会場でも消毒を繰り返し、練習を重ねてきました。市内在住の武藤英明先生のエネルギーギッシユな指揮で、力に満ちたベートーベンのエグモント序曲で始まり、心の歌で綴られたシューベルトの未完成交響曲、そして明るく素敵な旋律が満載のドヴォルザークの交響曲第八番と、とても素晴らしい演奏になりました。団員全員で作りました。忘れられない演奏会となりました。

芸術祭に参加して

日舞サークル連盟
花柳 佐衛竜

第三十七回芸術祭に久しぶりに参加したご報告です。

一年半余りのコロナ禍の中、芸術祭に参加するにあたって芸文協の事務局と打合せをしっかりと、当日に向かいました。

当日は検温、消毒、ホールの客席を半分にするなど、さまざまでした。席も初めての「指定席」という取り組みで、戸惑いました。

一番心配だったことは、楽屋の出演者の三密です。楽屋は人数制限もありスタッフが色々苦勞して密が出来ない様、人数制限を守る様、考えました。それぞれのサークルの先生からの提案で出演者には「検温」「体調」などを、関係者には「名前」や「連絡先」を書いて頂き、二週間保管しておきました。

この様に様々な事をして舞踊会の発表をする事ができました。

この度、芸術祭に参加できた事、日舞サークル連盟会員一同、感謝しております。サークル活動は、仲間同士楽しく、地域の交流を深める事と、思つて活動しております。これからも地域の活動に頑張つて参ります。



自粛下でも楽しく

習志野短歌会
森 みずえ

「習志野短歌会」では市民文化祭での短歌大会を開催、運営する仕事と毎月の短歌の勉強会を行っています。

文化祭の短歌大会は四十一回を迎えようとしています。三十回、四十回には芸文協から推薦金をいただくなど活動を支えていただいております。

二十八回を過ぎる頃からせっかく歌作りの仲間が集まってくるんだから短歌の勉強会をやるという気運が高まり、少ない人数ながら勉強会を立ち上げました。歌の作り方の参考になる本を読み合ったり、中央で活躍している歌人の作品に学んだり意欲的に行うような歌作りの勉強を重ねてきました。

高齢のため、活動が続けられなくなる仲間が年々出るのはさびしいことですが、文化祭の短歌大会に参加していただいた中から、大会の実行委員を引き受けてくださる方や勉強会のお仲間になられる方が少しずつ出て参りました。

月一度、第二金曜日にサンロードで実施している勉強会はコロナ禍の自粛生活の中で数少ない捌け口となっています。この何年かは題詠に挑戦し自分の歌の世界を広げようとして